

(第3種郵便物認可)

走る 語る

10参院選
北海道

-5-

「人を大切にす政治がキヤッチフレーズ。小泉改革で地方は切り捨てられた。一人一人が主役となり、幸福や悲しみを分かち合える社会にしたい」。公示後初めての日曜日となった27日。藤川雅司氏はマイクを手に、買い物客たち呼びかけた。30度近い暑さ。道内を巡るうちに真っ黒に日焼けした額から汗が吹き出した。

原点は自治労の政策研究グループ「自治研」活動。80年に札幌市役所に入ると、職場の仲間と誘われて、地方行政や政策を研究する自治研にのめり込んだ。どうしたら地

藤川雅司氏(53)＝民新

方は豊かになれるのか。国からの権限移譲や財源の確保……。今、民主党が唱える「地域主権」を指す先駆けでもあった。03年の市議選に立候補して初当選。市民参加の

国から地域改善

人を大切にす政治を

まちづくりを推進する称「ススキノ条例」など「自治基本条例」の制定にも力を注いだ。候補者に奔走する一方、ススキノを中心とした歓楽街で、客引きを取り締まる通戦力」が売りだ。

にもならない課題や意見も多くあった。市民の思を強くしていくことが必要だ。国政への意欲がみ



有権者に握手を求める民主党の藤川雅司氏＝札幌市手稲区で、小出洋平撮影

【趣味】写真撮影【座右の銘】有言実行【家族】母、妻、長女、次女、長男【愛読書】学問のすすめ【カラオケのおはこ】時代おくれ【尊敬する人物】努力する人【子どものころの夢】弁護士【好きな映画】「男はつらいよ」シリーズ

挑戦を決意した。4月以降、自治体の首長や各地の労働組合を中心に全道を回った。地域経済や医療現場の疲弊など、地域の抱える問題を目の当たりにした。「安心して子供が産める社会でなければ地域は活性化しない」「日本の食糧基地として、道内の第1次産業を強くしていくことが必要だ。国政への意欲がみ

＝おわり